

府中市の概況と生物多様性に 関する環境現況

令和 3 年 6 月

< 目次 >

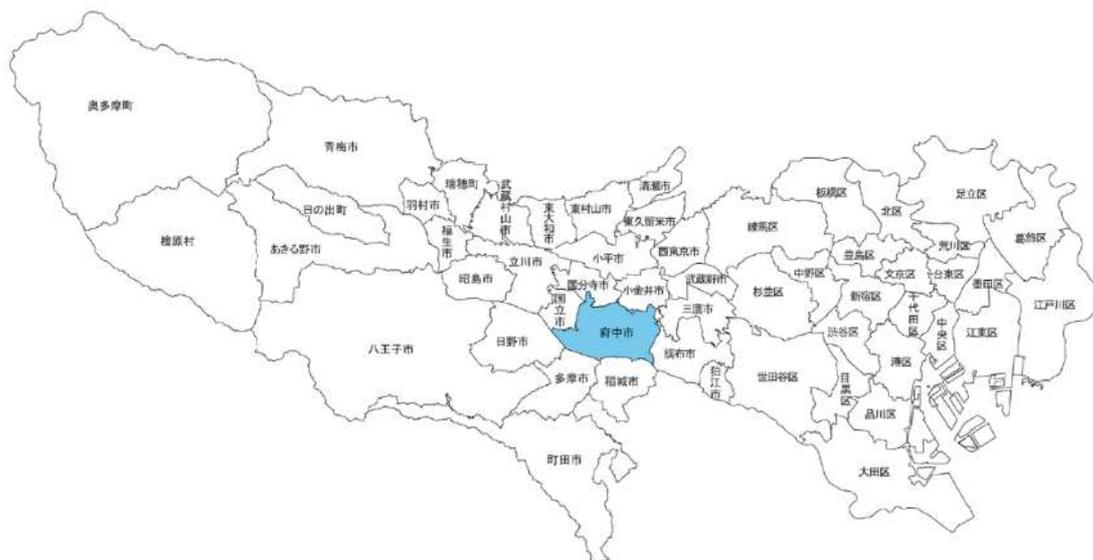
1. 府中市の概況	3
1.1. 地勢	3
1.2. 地形	3
1.3. 気候（降水量、平均気温）	4
1.4. 人口・世帯数	6
1.5. 土地利用	7
1.6. 産業構造	8
1.7. 交通	10
（1）交通網	10
（2）自動車交通	10
（3）鉄道	11
2. 府中市の生物多様性に関する環境現況	13
2.1. 生きもの	13
（1）府中市自然環境調査	13
（2）多摩川植物調査	16
（3）多摩川野鳥調査	17
（4）西府崖線生態系調査	17
（5）河川水辺の国勢調査	18
2.2. 緑の分布	22
（1）公園	24
（2）緑化	26
2.1. 水辺	27
（1）河川	27
（2）湧水	28
2.2. 景観および歴史・文化的環境	29
（1）景観重要公共施設	29
（2）歴史・文化的環境	32

1. 府中市の概況

1.1. 地勢

府中市は、島しょを除いた東京都のほぼ中央に位置し、新宿から西方約 22km の距離にある。東は調布市、西は国立市と日野市、南は多摩市と稲城市、北は小金井市と国分寺市に隣接している。

面積は 29.43km² で、東京都の面積の 1.3%、多摩地域の 2.5% を占めており、多摩地域で 7 番目に広く、その広がり東西 8.75km、南北 6.70km に及ぶ。



出典：第 2 次府中市環境基本計画

図 1-1 府中市の位置図

1.2. 地形

府中市は、南端に多摩川が流れ、ここから北へ約 1.7km にわたって平坦な多摩川沖積低地がある。その先には、東西に走る高さ約 6～7m の府中崖線を経て北方約 2.5km にわたって立川段丘が広がり、さらに、国分寺崖線を経て武蔵野段丘に及ぶ地域もある。立川段丘は、西端が海拔 70m、東端が海拔 40m で、市内で最も高いところは武蔵台 3 丁目以て海拔 82m である。



出典：気象庁データ（府中観測所）

図 1-3 降水量および平均気温の月別平年値（1991～2020年の平年値）



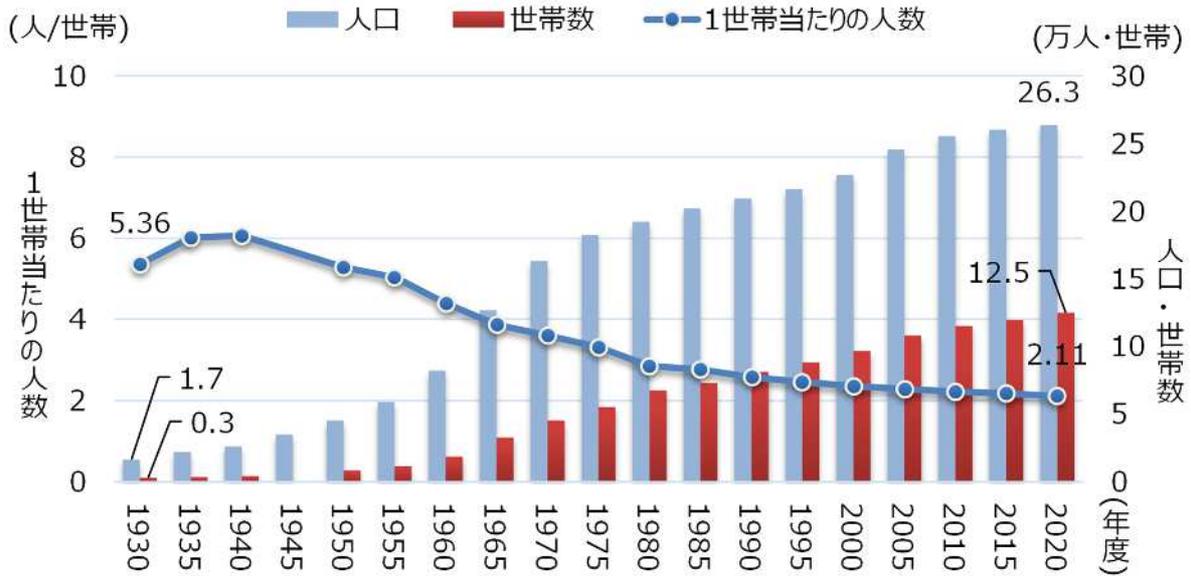
出典：気象庁データ（府中観測所）

図 1-4 1977～2020年の年平均気温・年間降水量の推移

1.4. 人口・世帯数

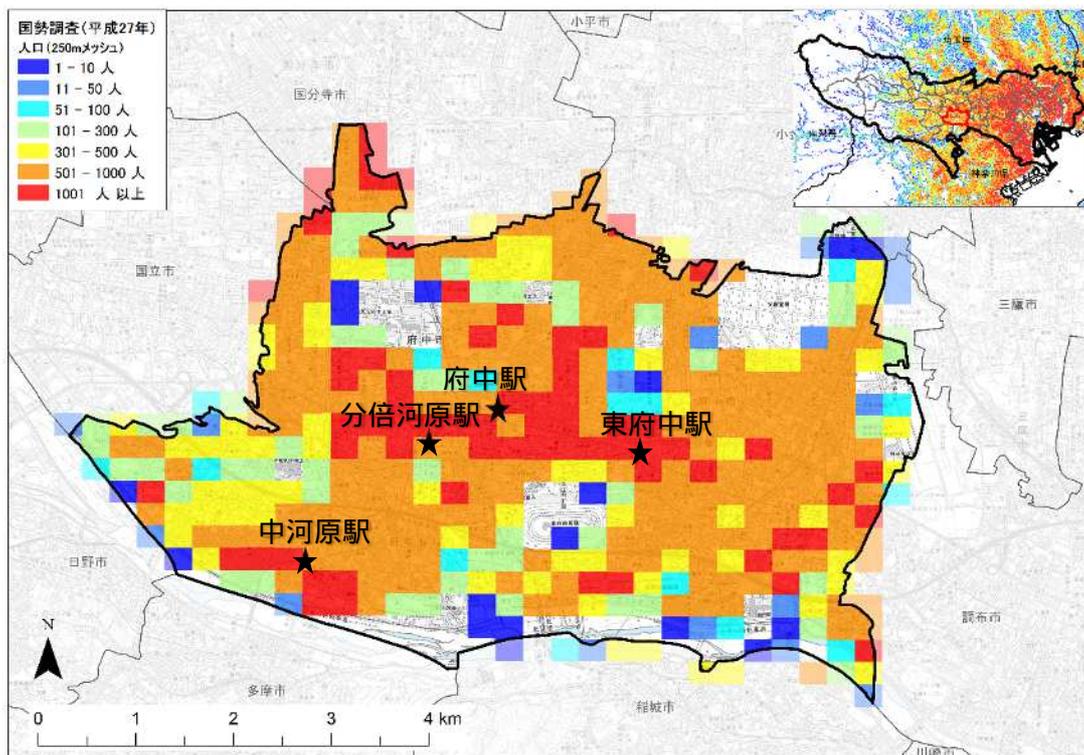
府中市の人口は、2020年10月1日時点では、総人口が263,499人、世帯数が124,744世帯となっている。人口および世帯数は増加傾向にある一方、1世帯当たりの人口は、減少傾向になっている。

人口分布を見ると、府中駅（京王線）、東府中駅（JR、京王線）、分倍河原駅（京王線）、中河原駅（京王線）など駅周辺地域に人口が集中している。



出典：府中市統計書

図 1-5 人口・世帯数の推移



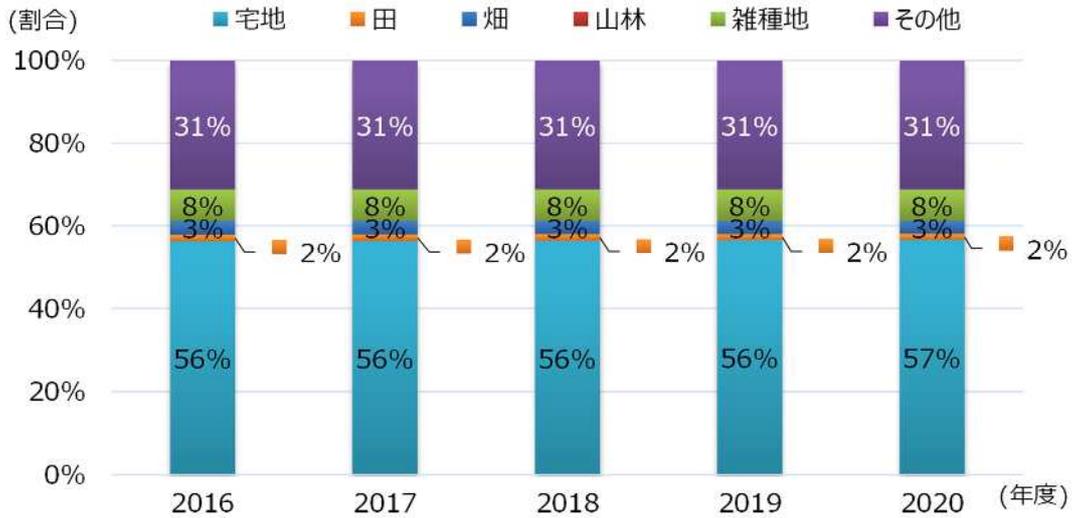
出典：平成27年国勢調査人口等基本集計

図 1-6 府中市の人口分布図

1.5. 土地利用

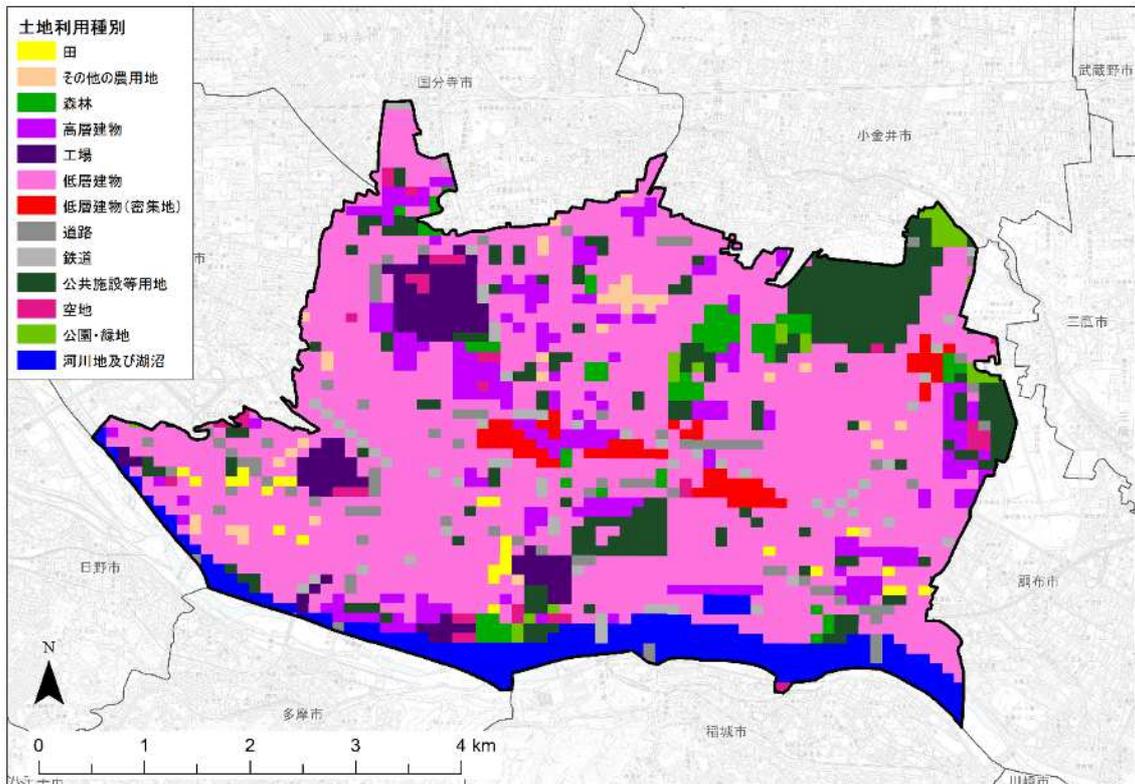
府中市の 2020 年度の土地利用については、宅地が全体の 57%と多く、次いで雑種地が 8%となっている。2016 年から 2020 年までにかけて、大きな変化はなかった。

また、全体的に低層建物が広がり、駅中心に低層建物が密集している。市の南側には多摩川が通り、多摩霊園や府中の森公園など森林も部分的に存在する。



出典：府中市統計書

図 1-7 土地利用割合（地目別の面積割合）



出典：国土数値情報 都市地域土地利用細分メッシュデータ（平成 28 年度）より作成

図 1-8 土地利用図

1.6. 産業構造

産業別就業者数を見ると、第3次産業が最も多く、続いて第2次産業となっている。

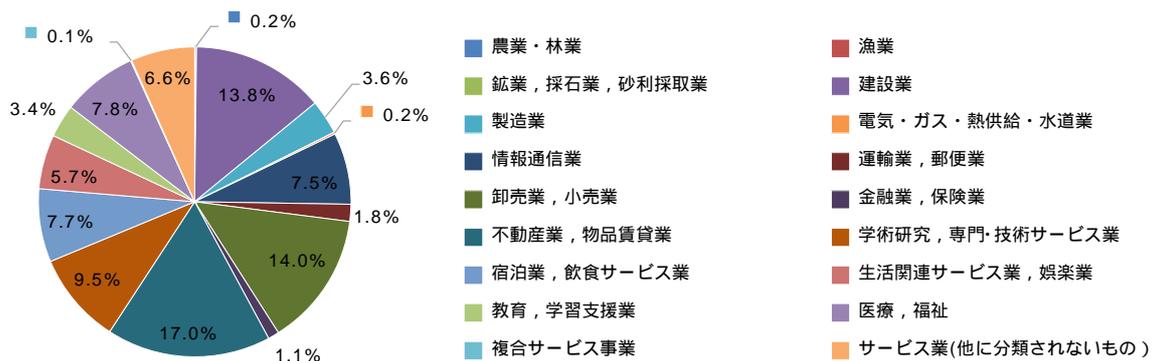
1995年から2015年までの産業別種の推移をみると、第2次産業は減少傾向にあり、第3次産業は増加傾向である。

産業分類別事業所数の割合を見ると、「不動産業，物品賃貸業」が17.0%と最も高く、「卸売業，小売業」(14.0%)、「建設業」(13.8%)と続いている。



出典：国勢調査

図 1-9 産業別就業者数の推移



産業大分類		事業所数	割合
A	農業・林業	2	0.2%
B	漁業	0	0.0%
C	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0	0.0%
D	建設業	146	13.8%
E	製造業	38	3.6%
F	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.2%
G	情報通信業	79	7.5%
H	運輸業, 郵便業	19	1.8%
I	卸売業, 小売業	148	14.0%

産業大分類		事業所数	割合
J	金融業, 保険業	12	1.1%
K	不動産業, 物品賃貸業	180	17.0%
L	学術研究, 専門・技術サービス業	101	9.5%
M	宿泊業, 飲食サービス業	81	7.7%
N	生活関連サービス業, 娯楽業	60	5.7%
O	教育, 学習支援業	36	3.4%
P	医療, 福祉	83	7.8%
Q	複合サービス事業	1	0.1%
R	サービス業(他に分類されないもの)	70	6.6%
全産業計		1,058	100.0%

出典：経済センサス 基礎調査

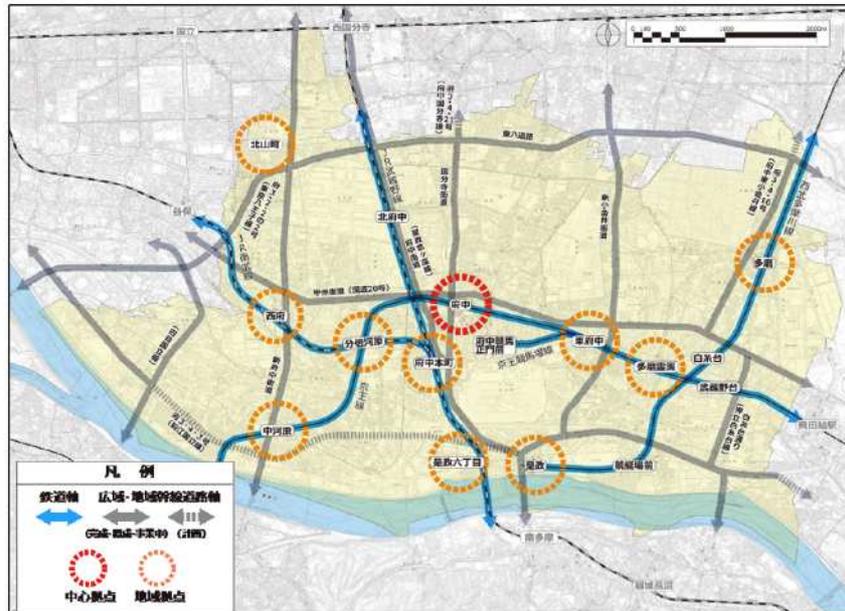
図 1-10 産業分類別事業所数内訳

1.7. 交通

(1) 交通網

府中市全域の交通の現況については、市の東西を横断する鉄道として京王線、南北を縦断する鉄道として JR 南武線、JR 武蔵野線及び西武多摩川線が敷設され、4 路線による鉄道ネットワークが構成される中、市内 14 駅では 1 日平均約 46 万 5 千人が利用している。また、コミュニティバスの路線拡大により、路線バスと併せてバス交通ネットワークが形成され、市内全域において公共交通の利用環境が整い、公共交通不便地域はおおむね解消された状況にある。

利便性の高い公共交通とともに、積極的な道路基盤の整備により、市の東西を横断する道路として、東八道路、甲州街道、中央自動車道等、南北を縦断する道路として、新小金井街道、府中街道、新府中街道等の整備が進むなど、都市計画道路は 8 割以上整備が完了し、道路ネットワークについてもおおむね形成されている。



平成 30 年 3 月時点

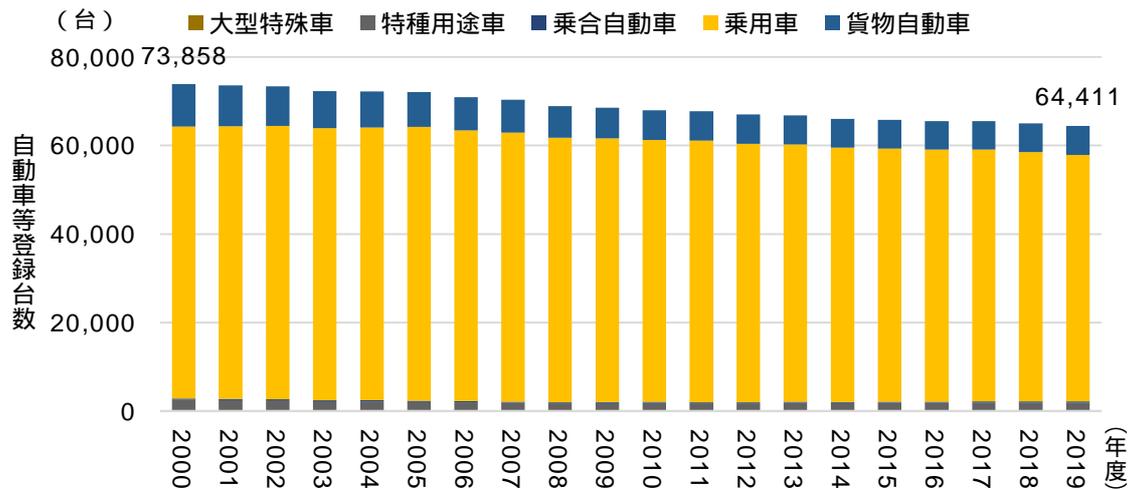
出典：府中市都市・地域交通戦略

図 1-11 幹線交通網

(2) 自動車交通

市の自動車保有台数は、2019 年度に合計 64,411 台となっており、そのうち乗用車が 55,644 台と 9 割以上を占めている。2000 年から 2019 年にかけて、自動車等保有台数は少しずつ減少する傾向にある。特に、乗用車は 2005 年の 61,838 台が最大となり、以降は、微減傾向にある。

自動車等登録台数の推移



年度	総数	貨物自動車	乗用車	乗合自動車	特種用途車	大型特殊車
2000	73,858	9,625	61,426	240	2,361	206
2001	73,592	9,300	61,526	244	2,313	209
2002	73,305	8,887	61,750	238	2,219	211
2003	72,238	8,386	61,333	260	2,049	210
2004	72,179	8,144	61,599	255	1,970	211
2005	72,036	7,882	61,838	253	1,847	216
2006	70,922	7,515	61,163	248	1,784	212
2007	70,374	7,473	60,782	260	1,647	212
2008	68,875	7,179	59,702	257	1,523	214
2009	68,495	6,897	59,518	270	1,596	214
2010	67,934	6,754	59,075	270	1,623	212
2011	67,763	6,701	59,045	272	1,534	211
2012	67,003	6,654	58,328	264	1,545	212
2013	66,798	6,567	58,130	260	1,624	217
2014	65,963	6,475	57,408	265	1,600	215
2015	65,753	6,447	57,196	269	1,630	211
2016	65,503	6,423	56,956	273	1,640	211
2017	65,537	6,490	56,885	269	1,681	212
2018	65,029	6,554	56,310	258	1,695	212
2019	64,411	6,558	55,644	261	1,737	211

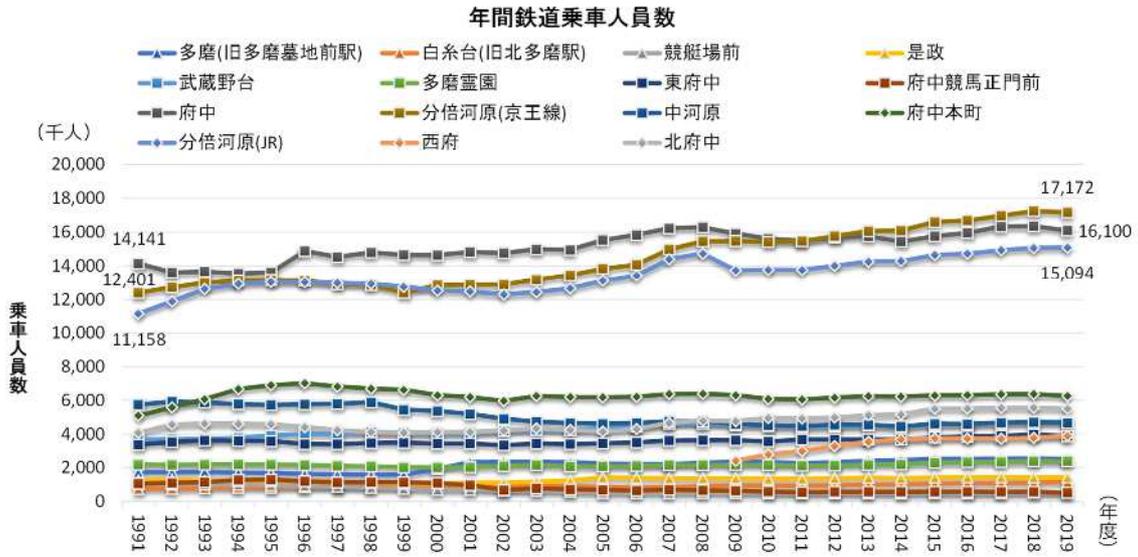
出典：東京都統計年鑑

図 1-12 自動車保有台数の推移

(3) 鉄道

府中市には、京王電鉄京王線と競馬場線、JR 南武線、JR 武蔵野線、西武鉄道多摩川線の5線が通っている。

2019年における府中市内の鉄道3社5路線14駅の年間乗車人員数は、85,969千人となった。京王電鉄の府中駅、分倍河原駅、およびJR東日本の分倍河原駅は、1991年以降増加傾向にあり、2019年度は、京王電鉄の分倍河原駅が17,172千人と最も多かった。



出典：東京都統計年鑑

図 1-13 年間鉄道乗車人員数の推移

2. 府中市の生物多様性に関する環境現況

2.1. 生きもの

(1) 府中市自然環境調査

府中市が平成 25 年度から継続している調査であり、令和元年も調査地点を「武蔵台公園」と定め、毎月 1 回の定期的な「自然環境調査」を実施している。

なお、この調査は本市の自然環境の現状を把握するため、かつて府中市自然調査団が行った「府中市自然調査報告（東京都府中市教育委員会発行）（昭和 45 年（1970 年）」を参考に、平成 24 年 12 月に発足した府中市自然環境調査員会議において調査方法を検討したものである。

表 2-1 府中市自然環境調査（令和元年） 調査内容

調査地	武蔵台公園 住所：府中市武蔵台 2 丁目 2 番地 面積：46,835.08 m ²	
調査対象	草本類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蕾（つぼみ）、花、実の状態にあるものについて記録 ・ 雑木林に昔からある草本類のうち、市内において減少しているものを「指定植物」とし、開花花序数等のおおまかな位置を地図上に記録
	シダ類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胞子がついているものについて記録
	木本類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蕾（つぼみ）、花、実の状態にあるものについて記録
	昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卵囊（らんとう）、幼態、成虫の状態にあるものについて記録 ・ 種名の判別がつかないものについては掲載しなかった
	鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視および鳴き声により確認したものについて記録

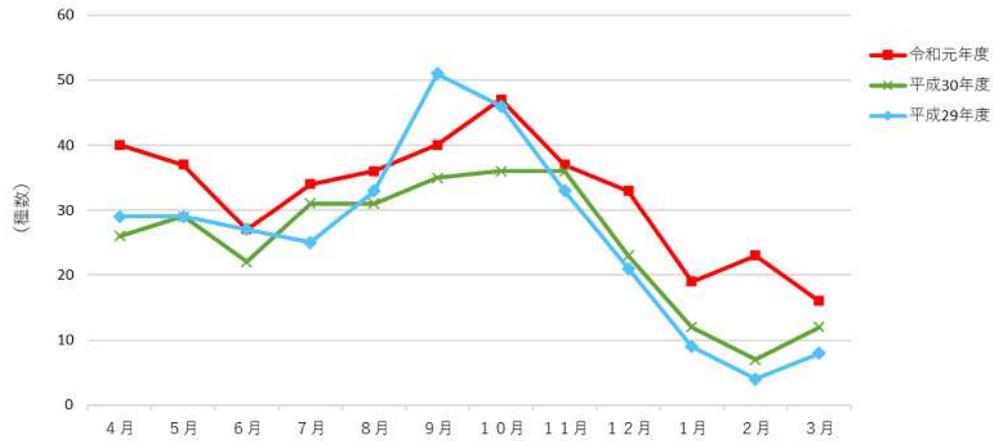
1) 草本類

草本類は、138 種を確認されている。

確認種数の月別変化を見ると、種数は概ね 4 月頃と 10 月前後に多く、2 月前後に少なくなっているが、これはほぼ例年通りとなっている。

指定植物 15 種についてその開花株数を前年度と比べると、ヒヨドリバナ、シュンラン、フジカンゾウ、キツネノカミソリ、シロヨメナはやや増加、キンラン、ギンラン、ササバギンランには大きな変化は見られなかったが、マヤラン、ヤマユリ、シラヤマギクは大きく減少した。ミツバツチグリは 1 株確認されている。ノヤマトンボ（オオバノトンボソウ）は開花してないものが数株見られている。ミズタマソウ、ヤクシソウは一昨年来確認されていない。

これらの貴重な植物の保護育成のためにも、ミドリハカタカラクサ、シャガ、セリバヒエンソウなどのような移入種の分布拡大は懸念事項となっている。



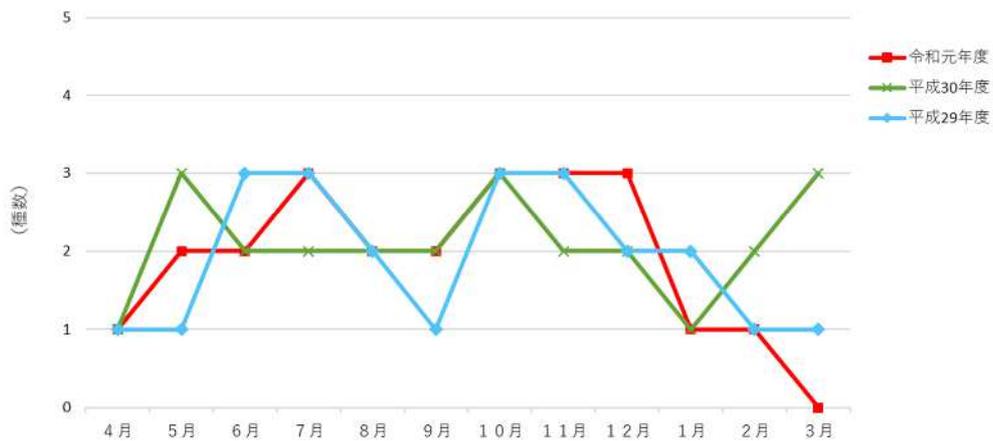
出典：府中市自然環境調査（令和元年度）報告書

図 2-1 平成 29 年～令和元年度確認種数月別変化比較（草本類）

2) シダ類

シダ類は、3種確認されている。

群生は確認されず、前年度に比べて種数が少ないことが確認されている。



出典：府中市自然環境調査（令和元年度）報告書

図 2-2 平成 29 年～令和元年度確認種数月別変化比較（シダ類）

3) 木本類

大本類は、60種確認されている。

全体の種数は毎年ほぼ変わらないが、当年度の確認種数の月別変化をみると、他年度に比べて月ごとの種数の差が小さくなっている。



出典：府中市自然環境調査（令和元年度）報告書

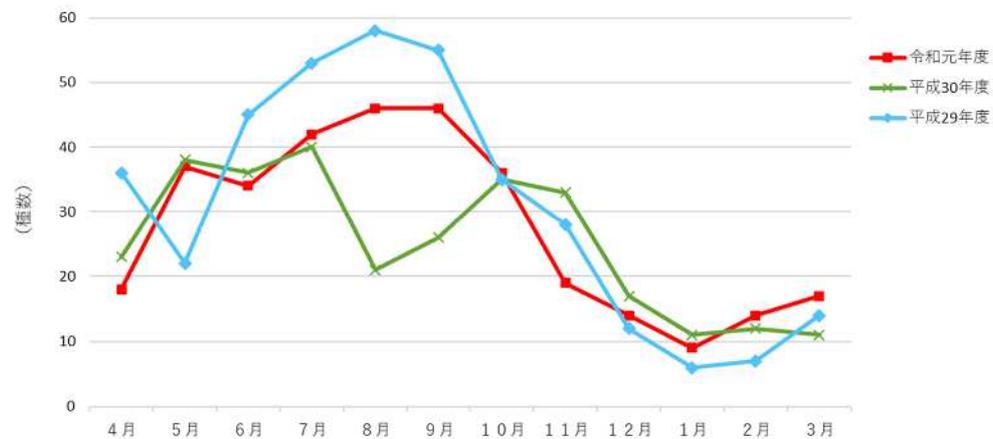
図 2-3 平成 29 年～令和元年度確認種数月別変化比較（木本類）

4) 昆虫類

令和元年度（2019年度）昆虫類は331種確認されている。

新規に観察した数は、カゲロウ目1種、トンボ目1種（オオシオカラトンボ）、ハサミムシ目1種（コバネハサミムシ）、バッタ目2種（ヒメクダマキモドキ他）、カメムシ目5種（アオモンツノカメムシ他）チョウ目12種（オナガアゲ他）、ハエ目14種（ヤマトアブ他）、コウチュウ目22種（ハラグロオオテントウ他）、ハチ目6種（キボシアシナガバチ他）など64種と確認されている。

令和元年度（2019年度）は、台風など天候不順の1年であったが観察数は昨年を超えた種数の確認されている。

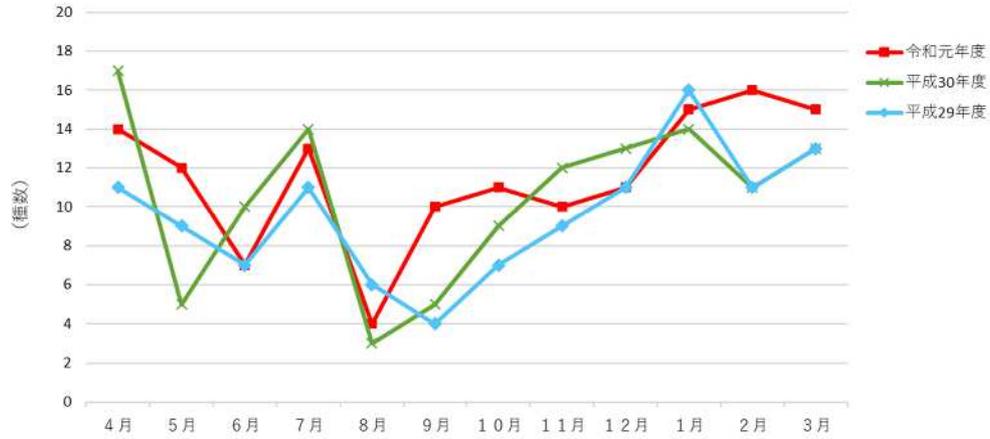


出典：府中市自然環境調査（令和元年度）報告書

図 2-4 平成 29 年～令和元年度確認種数月別変化比較（昆虫類）

5) 鳥類

令和元年度（2019年度）鳥類は、在来種22種、外来種4種が確認されている。



出典：府中市自然環境調査（令和元年度）報告書

図 2-5 平成 29 年～令和元年度確認種数月別変化比較（鳥類）

(2) 多摩川植物調査

府中市は、自然環境の変化を継続的に記録するため、市民の方々により、生息する植物を対象とした調査「多摩川植物調査」を行っている。調査結果は生物多様性の保全に向けた基礎データとして記録している。

2019年度は、272種が確認されている。そのうち、19種が2019年度新規で確認されている。

表 2-2 多摩川植物調査 調査内容

調査期間	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
調査場所	多摩川河川敷（大丸堰周辺から読売新聞社まで）
調査人数	延べ 94 名
調査内容	多摩川河川敷に自生する植物の観察及び調査

(3) 多摩川野鳥調査

府中市は、自然環境の変化を継続的に記録するため、市民の方々により、生息する野鳥を対象とした調査「多摩川野鳥調査」を行っている。調査結果は生物多様性の保全に向けた基礎データとして記録している。

鳥類は、81 種類が確認されている。

表 2-3 多摩川野鳥調査 調査内容

調査期間	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
調査場所	多摩川河川敷（大丸堰周辺から読売新聞社まで）
調査人数	延べ 94 名
調査内容	多摩川河川敷に自生する植物の観察及び調査

(4) 西府崖線生態系調査

府中市が、市内で環境活動を行っている「特定非営利活動法人 府中かんきょう市民の会」に委託して市民ボランティア調査（西府崖線生態系調査）が実施されており、その中で昆虫等調査、野鳥調査、魚類調査が行われている。

昆虫等は、合計 40 種類が確認されている。

鳥類は、合計 22 種類が確認されている。

魚類等は、合計魚類 7 種、貝類 1 種、エビ類・カニ類 2 種、水生昆虫類 1 種、その他 2 種の 14 種が確認されている。

表 2-4 西府崖線生態系調査 調査概要（昆虫等）

調査日	令和元年 5 月 18 日、7 月 20 日、10 月 26 日（3 日）
調査場所	西府町 1 丁目（西府崖線付近一帯）
参加人数	29 名
調査内容	西府崖線付近一帯に生息する昆虫等の調査

表 2-5 西府崖線生態系調査 調査概要（野鳥調査）

調査日	令和 2 年 1 月 19 日
調査場所	西府町 1 丁目（西府崖線付近一帯）
参加人数	3 名
調査内容	西府崖線付近一帯に生息する野鳥の調査

表 2-6 西府崖線生態系調査 調査概要（魚類等）

調査日	令和 2 年 7 月 21 日
調査場所	西府町 1 丁目（西府崖線下の府中用水路）
参加人数	19 名
調査内容	西府崖線下の府中用水路に生息する魚類等の調査

(5) 河川水辺の国勢調査

国土交通省の京浜河川事務所と全国の地方自治体では、多摩川において河川水辺の国勢調査を実施している。植物調査が 2005 年および 2006 年度に、陸上昆虫類等調査が 2009 年度に、魚類調査が 2016 年度に実施されている。

河川水辺の国勢調査で確認された重要種について、2005 年および 2006 年度に実施された植物調査では、合計 20 種類の重要種が確認されている。2009 年度に実施された陸上昆虫類等調査では、合計 11 種類の重要種が確認されている。2004 年度に実施された鳥類調査では、合計 22 種類の重要種が確認されている。2016 年度に実施された魚類調査では、合計 12 種類の重要種が確認されている。

表 2-7 重要種一覧(植物)

種名	重要種		多摩川				浅川
	環境省 RL	東京都 RL	調査地点番号				
		北多摩					
ジャヤナギ		VU					
オノエヤナギ		NT					
コゴメヤナギ		VU					
カワラナデシコ		VU					
ウマノスズクサ		VU					
ハタザオ		VU					
カワラサイコ		VU					
カワラケツメイ		VU					
レンリソウ		EN					
ミズハコベ		EX					
セキショウモ		EN					
ササバモ		NT					
アマドコロ		VU					
ニガカシュウ		VU					
タチコウガイゼキショウ		VU					
セトガヤ		NT					
エゾノサヤヌカグサ		NT					
ミノボロ		NT					
マコモ		NT					
ヤガミスゲ		VU					
20 種	0 種	20 種	8 種	8 種	8 種	12 種	3 種

大丸用水堰付近

大丸用水堰上流 多摩川・大栗川合流点付近

府中四谷橋上流 多摩川・浅川合流点付近

府中四谷橋上流 多摩川・浅川合流点付近

府中四谷橋上流 多摩川・浅川合流点付近 浅川

出典：多摩川 河川水辺の国勢調査(2005、2006 年度)(国土交通省)

表 2-8 重要種一覧（陸生昆虫類等）

種名	重要種		多摩川	
	環境省 RL	東京都 RL	調査地点番号	
		北多摩		
コガネグモ		NT		
アシナガカニグモ		DD		
アオイトトンボ		VU		
ヒゲシロスズ		NT		
カワラバッタ		CR		
ショウリョウバッタモドキ		VU		
アカガネアオゴミムシ		NT		
オサムシモドキ		VU		
ハンノヒメコガネ		DD		
ヒゲコガネ		VU		
キボシトックリバチ		DD		
11 種	0 種	11 種	5 種	7 種

大丸用水堰 下流付近
府中四谷橋上流 多摩川・浅川合流点付近

出典：多摩川 河川水辺の国勢調査(2009 年度) (国土交通省)

表 2-9 重要種一覧(鳥類)

種名	重要種		多摩川	
	環境省 RL	東京都 RL	調査地点番号	
		北多摩		
カイツブリ		NT		
ササゴイ		EN		
ダイサギ		NT		
チュウサギ	NT	VU		
コサギ		NT		
キジ		VU		
オオバン		VU		
コチドリ		VU		
イカルチドリ		VU		
イソシギ		VU		
ヒメアマツバメ		NT		
カワセミ		NT		
アオゲラ		NT		
ヒバリ		VU		
コシアカツバメ		VU		
セグロセキレイ		NT		
モズ		VU		
ウグイス		NT		
オオヨシキリ		VU		
センダイムシクイ		VU		
エナガ		NT		
ベニマシコ		VU		
22 種	1 種	22 種	18 種	19 種

大丸用水堰付近 府中市側
 大丸用水堰付近 稲城市・多摩市側

出典：多摩川 河川水辺の国勢調査(2004 年度) (国土交通省)

表 2-10 重要種一覧（魚類）

種名	重要種		多摩川	
	環境省 RL	東京都 RL	調査地点番号	
		北多摩		
スナヤツメ類	VU	CR		
ニホンウナギ	EN	VU		
アブラハヤ		VU		
カマツカ		NT		
ニゴイ		NT		
ドジョウ	DD			
ヒガシシマドジョウ		VU		
ホトケドジョウ	EN	CR+EN		
ギバチ	VU	VU		
ナマズ		留		
アカザ	VU			
エドハゼ	VU			
12 種	7 種	9 種	12 種	12 種

大丸用水堰付近
府中四谷橋上流 多摩川・浅川合流点付近

出典：多摩川 河川水辺の国勢調査(2016 年度) (国土交通省)

【 重要種選定基準 】

環境省 RL：環境省レッドリスト 2020 (環境省, 2020 年 3 月)

【カテゴリー】

- ・ 絶滅 (EX)：わが国ではすでに絶滅したと考えられる種
- ・ 野生絶滅 (EW)：飼育・栽培下のみで存続している種
- ・ 絶滅危惧 IA 類 (CR)：ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧 IB 類 (EN)： A 類ほどではないが、近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧 II 類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
- ・ 準絶滅危惧 (NT)：現在、絶滅危険度は小さいが、「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・ 情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種
- ・ 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

東京都 RL：レッドデータブック東京 2020～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～
（区部）(東京都, 2021 年 4 月)

【カテゴリー】

- ・ 絶滅 (EX)：東京都において、すでに絶滅したと考えられる種
- ・ 野生絶滅 (EW)：東京都において、飼育・栽培下のみで存続している種
- ・ 絶滅危惧 IA 類 (CR)：ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧 IB 類 (EN)： A 類ほどではないが、近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧 II 類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
- ・ 準絶滅危惧 (NT)：現在、絶滅危険度は小さいが、「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・ 情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種
- ・ 留意種：
現在、絶滅のおそれはないが、準絶滅危惧 (NT) に準じる孤立個体群の存在する種や外来種の影
響が懸念される種、環境指標になる種など

2.2. 緑の分布

平成 28 年 3 月時点の「緑地」は、732.76ha で、市面積の 24.90%であった。「緑地」の変化状況を見ると、平成 20 年 3 月から平成 28 年 3 月までの 8 年間で 11.59ha の減少となり、内訳を確認すると、公園・緑地等の都市施設とする緑地については、整備が進んだことから増加した。

一方で、主に民有の緑地である、生産緑地地区¹等の制度上安定した緑地や社会通念上安定した緑地の宅地化が進んだことなどが原因となり減少した。

また、自然的土地面積の割合は 1965 年の 46.4%から、2019 年には 7.5%となっており、54 年間で 38.9%のマイナスで、みどりの減少が進んでいる。近年においても、自然的土地面積の割合は減少する傾向にある。

緑被²調査を開始した昭和 62 年からの推移を確認すると、平成 9 年までは減少傾向にあったが、平成 20 年以降は横ばいで推移している。平成 20 年と平成 28 年の緑被³率を比較すると、緑被面積で 2.11ha、緑被率で 0.16 ポイント減少している。減少は、草地の減少によるもので、平成 20 年と平成 28 年を比較すると、面積で 12.97ha、草地率で 0.48 ポイント減少している。一方で、樹木被覆地は平成 9 年以降増加傾向にあり、平成 20 年と平成 28 年を比較すると、面積で 10.86ha、樹木被覆率で 0.32 ポイント増加していた。

表 2-11 緑地の現況量及び変化量

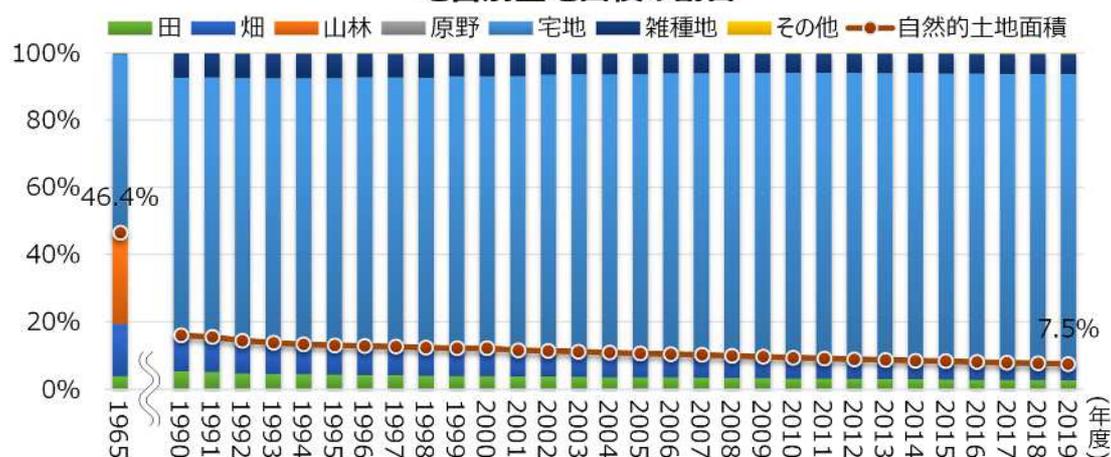
	平成20年3月		平成28年3月		増 減 面積(ha)
	面積(ha)	市域に占める割合(%)	面積(ha)	市域に占める割合(%)	
1 公園緑地等の都市施設とする緑地 (都市公園、条例等の公園)	180.68	6.14	183.98	6.25	3.30
都市公園	171.69	5.83	178.35	6.06	6.67
都市公園以外の市立公園	8.99	0.31	5.62	0.19	-3.37
2 制度上安定した緑地 (公共空地、生産緑地地区、保安林等)	450.47	15.31	436.08	14.82	-14.39
3 社会通念上安定した緑地 (社寺境内地、公開性のある施設等)	113.20	3.85	112.70	3.83	-0.50
合 計	744.35	25.29	732.76	24.90	-11.59

出典：公園緑地課資料

1 「緑地」の定義

- ・本計画における「緑地」とは、都市施設の緑地（都市公園、都市公園以外の市立公園）制度上安定した緑地（生産緑地地区・保安林等）社会通念上安定した緑地（社寺境内地、公開性のある施設等）をいう。
 - ・これら「緑地」は、市民生活に潤いや安らぎを与えてくれるほか、地域の個性や魅力を創出するなど、都市の魅力を高める機能を有している。
- 2 調査技術の向上により、平成 20 年以降の緑被地には、平成 9 年まで緑被地として 捉えられなかった宅地内の小規模緑被地の面積が含まれる。
- 3 緑被率は、本市に占める緑被地面積の割合。

地目別土地面積の割合



単位：ha

年度	田	畑	山林	原野	宅地	雑種地	その他	自然的 土地面積	計
1965	64.8	259.0	439.4	15.3	892.6	2.3	2.6	778.5	1,676.0
1990	83.9	167.9	0.3	0.0	1,203.0	114.9	1.6	252.1	1,571.6
1991	82.0	162.4	0.3	0.0	1,212.4	113.5	1.5	244.7	1,572.1
1992	74.9	150.2	0.3	0.0	1,216.2	112.4	3.9	225.4	1,557.8
1993	71.0	144.1	0.2	0.0	1,221.0	113.6	4.0	215.3	1,553.8
1994	68.5	138.5	0.1	0.0	1,224.3	113.5	3.5	207.0	1,548.4
1995	67.3	134.5	0.1	0.0	1,227.1	111.2	3.8	201.9	1,544.0
1996	65.5	132.8	0.1	0.0	1,232.1	107.7	4.3	198.4	1,542.4
1997	64.7	130.7	0.1	0.0	1,228.5	107.8	4.5	195.4	1,536.1
1998	62.1	128.1	0.1	0.0	1,230.4	109.4	4.4	190.3	1,534.5
1999	60.7	126.2	0.1	0.0	1,237.4	102.7	4.2	186.9	1,531.3
2000	60.7	126.2	0.1	0.0	1,237.4	102.7	4.2	186.9	1,531.3
2001	58.6	119.0	0.1	0.0	1,246.1	101.4	4.4	177.7	1,529.6
2002	57.8	116.6	0.1	0.0	1,254.0	95.7	4.1	174.4	1,528.2
2003	56.9	114.3	0.1	0.0	1,258.5	93.0	4.0	171.3	1,526.8
2004	55.9	111.1	0.0	0.0	1,263.4	93.6	4.1	167.0	1,528.1
2005	54.6	108.6	0.1	0.0	1,270.2	92.5	4.2	163.3	1,530.2
2006	53.5	105.7	0.1	0.0	1,266.4	87.8	3.8	159.3	1,517.3
2007	52.6	103.7	0.1	0.0	1,272.1	87.4	3.8	156.3	1,519.6
2008	51.1	100.1	0.0	0.0	1,276.3	86.3	4.0	151.2	1,517.8
2009	50.8	96.3	0.0	0.0	1,279.0	86.9	3.6	147.1	1,516.7
2010	49.4	93.7	0.0	0.0	1,282.9	86.4	4.0	143.1	1,516.3
2011	48.7	90.4	0.0	0.0	1,286.4	85.6	3.8	139.1	1,514.9
2012	47.7	87.5	0.0	0.0	1,287.5	85.6	4.2	135.2	1,512.5
2013	47.0	85.8	0.0	0.0	1,289.0	87.2	3.9	132.8	1,512.9
2014	44.6	84.6	0.0	0.0	1,292.2	85.5	3.8	129.2	1,510.6
2015	44.1	82.9	0.0	0.0	1,293.9	88.9	4.0	127.0	1,513.8
2016	43.1	80.6	0.0	0.0	1,296.6	88.9	4.5	123.7	1,513.7
2017	42.3	77.8	0.0	0.0	1,298.6	89.7	4.9	120.1	1,513.2
2018	41.1	76.2	0.0	0.0	1,300.5	89.7	5.2	117.3	1,512.7
2019	40.1	74.1	0.0	0.0	1,304.2	89.5	5.4	114.2	1,513.3

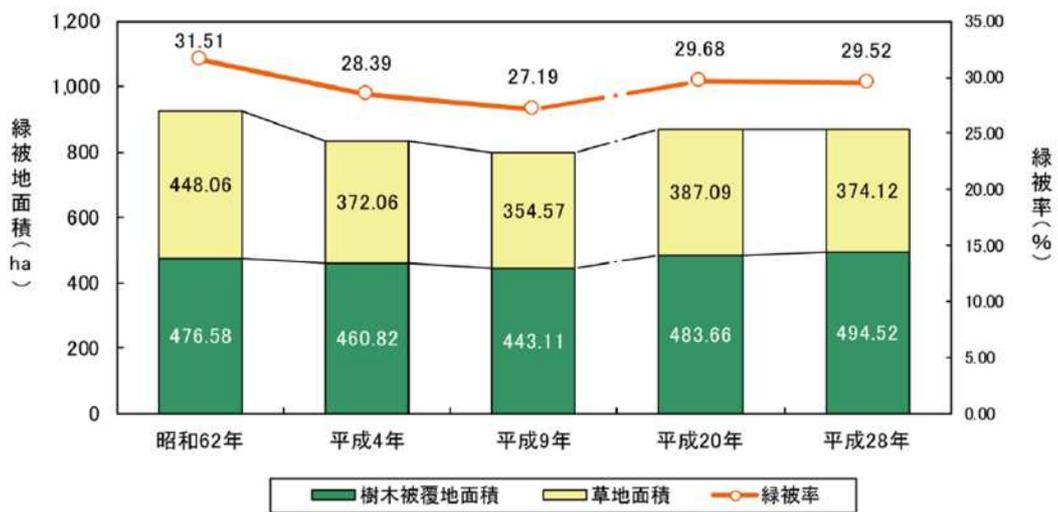
出典：東京統計年鑑

図 2-6 地目別土地面積の推移



出典：府中市緑の基本計画 2020

図 2-7 緑被現況図



出典：府中市緑の基本計画 2020

図 2-8 緑被地の推移

(1) 公園

令和元年度では、市民 1 人当たりの公園面積は 1.03m²、市全体での公園が占める割合は、9.22%となっている。

表 2-12 都市公園等の現況（令和元年度現在）

種別		箇所数	面積 (100m ²)
都市公園	街区公園	214	2,714
	近隣公園	10	1,297
	地区公園	2	980
	運動公園	2	3118
	総合公園	2	5101
	特殊公園	4	2276
	広場公園	4	13
都市緑地		18	350
緑道		17	1204
その他の公園		73	557
合計		347	18,548
市民1人当たりの公園面積 (m ²)			1.03
市域面積に対する割合 (%)			9.22

人口は、2019年10月1日時点の総人口が263,932人で計算
 市域面積は、2019年10月1日時点の29.43km²で計算

出典：府中市統計書

(2) 緑化

府中市が、樹冠が 10 m²以上の樹木について、平成 20 年と平成 28 年の航空写真を比較し調査した結果、樹木は 2,020 本減少（4,155 本減少、2,135 本増加）した。減少の内訳は、伐採によるものが 3,109 本と過半を占めており、強剪定によるものが 1,046 本となっている。増加の内訳は、新たに植栽されたものが 155 本、成長によるものが 1,980 本となっておりその多くが街路樹となっている。

表 2-13 樹木本数の増減（平成 20 年から平成 28 年）

	減少	増加	差引
樹木本数	4,155 本	2,135 本	2,020 本減少

出典：公園緑地課資料

表 2-14 街路樹の内訳

街路樹の分類	区分	本数(本)	全体に対する割合(%)
低木	2m未満	531	5.06%
中木	2m以上4m未満	1,783	17.00%
高木	4m以上12m未満	6,811	64.94%
高高木	12m以上	1,363	12.99%
合計		10,488	100.00%

出典：府中市インフラマネジメント白書（2017 年度）



出典：府中市インフラマネジメント白書（2017 年度）

図 2-9 街路樹の分布状況（平成 28 年度調査）

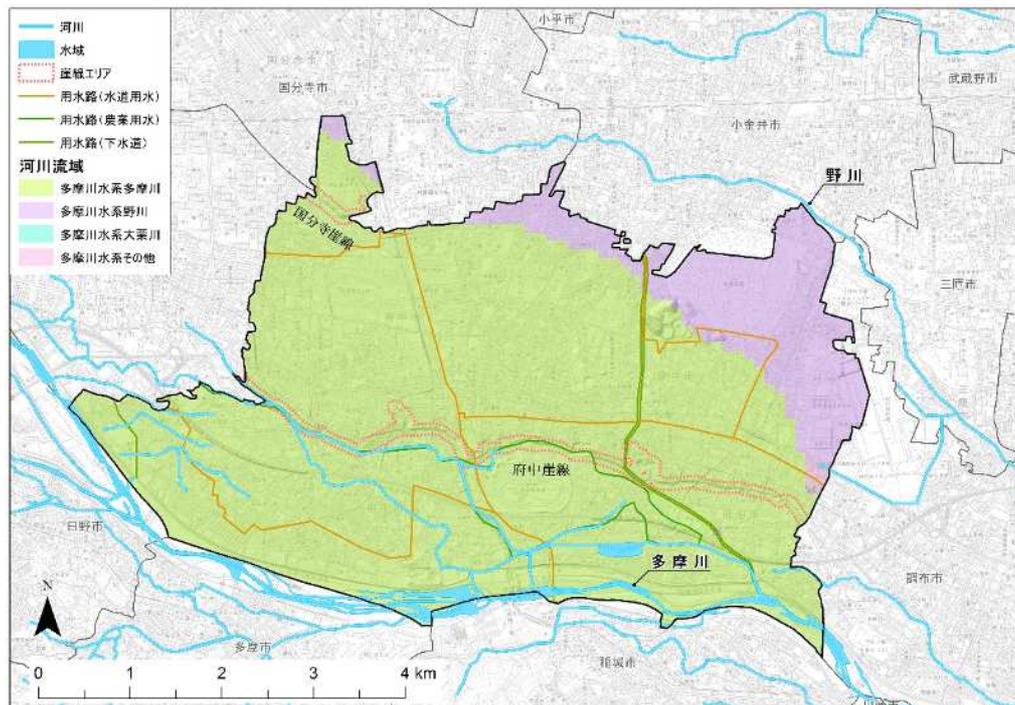
2.1. 水辺

(1) 河川

府中市の南側は、1級河川である多摩川が流れており、神奈川県との県境となっている。また、市の北東端は、多摩川の支流の1つである野川が流れている。

また、府中崖線の南側には、多摩川を水源として江戸時代に開削された農業用水である府中用水があり、水路延長が6km、現在は、国立市、府中市の水田約11ヘクタール、畑約8.5ヘクタール、樹園地約2.5ヘクタールの合計約22ヘクタールを潤している。

また、府中用水は、都内で唯一疎水百選⁴に選ばれている。



出典：国土数値情報 流路メッシュ（平成21年度） 国土数値情報 河川（平成20年度） 国土調査 水調査 主要水系調査 多摩川（平成17年度） 地理院地図 地形分類（自然分類）

図 2-10 河川図



府中用水の様子

出典：東京都産業労働局 府中用水

⁴ 疎水百選とは、一般投票及び選考委員会により平成18年に全国の農業用水から選定されたものである。

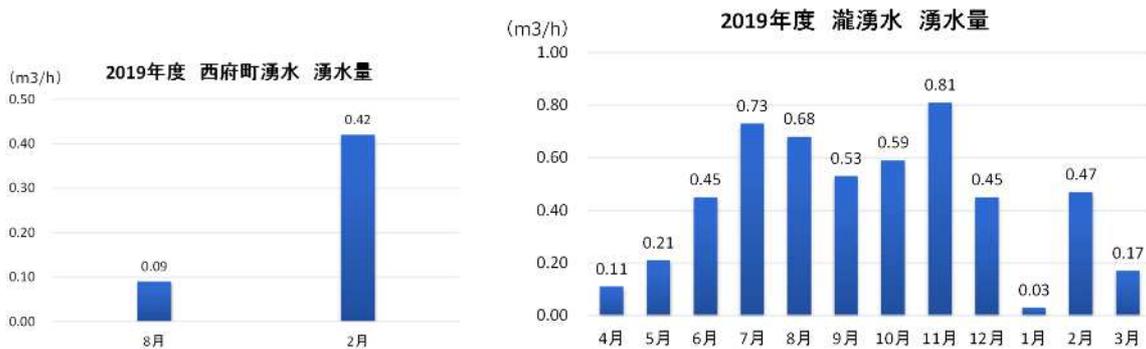
(2) 湧水

市内には、府中崖線を中心に 3 か所（西府町・瀧・浅間神社）の湧水がある。最も水量が多い西府町湧水は、東京都の「東京の名湧水 57 選」の一つに選ばれている。しかし、都市化による建物・舗装の増加や緑地の減少により、地下へ雨水浸透量が減少し、湧水の水量減少や枯渇が occurring。



出典:東京都環境局（東京の名湧水 57 選）、府中市 HP

図 2-11 府中市内の湧水の位置



出典：府中の環境 令和元年度 湧水調査結果

図 2-12 2019 年 湧水湧出量の変化⁵

⁵ 浅間神社湧水はデータなし。

2.2. 景観および歴史・文化的環境

(1) 景観重要公共施設

道路、河川、公園などの公共施設は、景観を構成する重要な要素であり、府中市が、その周辺の土地利用と調和した整備や管理を行うことにより、効果的に良好な景観を形成することが可能となる。このため、景観法に基づく「景観重要公共施設」の制度を積極的に活用し、地域のまちづくり等と連携して良好な景観の形成に配慮した整備を行う。

また、「景観重要公共施設」に位置付けた施設の周辺では、地域における良好な景観の形成を図る観点から、当該公共施設の整備等の機会に合わせて、土地利用を適正に誘導する。

表 2-15 景観重要公共施設一覧表

景観重要道路	
国分寺街道(けやき並木通り)	<p>国分寺街道の大國魂神社から桜通りまでの間は、馬場大門のケヤキ並木として国の天然記念物にも指定されており、府中市のシンボルとして市民に親しまれている。</p> <p>この区間は、沿道建物の壁面後退をはじめ様々な景観形成の取り組みを行ってきたが、今後も府中市のシンボルとして、けやき並木の維持、保全に努め、市民の積極的な参加を促進し、落ち着いた風格のある景観の形成を図るとともに、中心的な市街地としてにぎわいを創出している。</p> <p>：天然記念物の指定区間は一部異なる。</p>  <p style="text-align: center;">国分寺街道(けやき並木通り)</p>
市道 4-50 号、市道 4-55 号	<p>大國魂神社の東側に位置する市道 4-55 号(延長約 200m)、及び西側に位置する市道 4-50 号(延長約 300m)は、「大國魂神社が持つ歴史性と豊かな緑を中心とし、行き交う人々の活動が主役となるまちづくり」をデザインコンセプトとして、意見交換会により「みちづくり」の方針、道路デザインの検討を重ねながら整備を行っている。</p> <p>今後は、2つの市道を神社を引き立てるみちとし、大國魂神社を街並みの主役とした沿道の維持・保全に努める。</p>

	 <p style="text-align: center;">景観重要道路位置図</p>
--	---

景観重要公園・緑道	
郷土の森公園	<p>郷土の森公園は多摩川に隣接し、豊かな緑地、緑道や水路が存在することから「水と緑のネットワーク」の拠点として位置づけ、「府中市水と緑のネットワーク拠点整備実施計画」(平成 18 年 5 月)に基づき整備を進めている。</p> <p>今後、新しい観光の視点も含めて見直し、全庁的な調整を行いながら各施設の関連性を検討し、一体的な整備を更に推進する。</p>

<p>緑道・遊歩道(下河原緑道、二ヶ村緑道、新田川緑道、第三都市遊歩道、多摩川かぜのみち)</p>	<p>水と緑が持つ様々な機能を相乗的に高めていくため、個々の水と緑を結ぶ「水と緑のネットワーク」を緑の基本計画に示し、取組みを行ってきた。</p> <p>対象となる緑道・遊歩道については、景観重要公共施設とし、水と緑の回廊としての連続性を確保し、生物の生息空間、散歩やウォーキングなどのレクリエーション、拠点区域への徒歩やサイクリングでのアクセスルートなどの機能をより一層充実させます。</p> <p>今後は、景観重要公共施設となる緑道・遊歩道等を増やし、人と自然が共生する緑豊かなまちづくりを推進する。</p> <div data-bbox="528 636 1307 1178" data-label="Image"> </div> <p>水と緑のネットワーク拠点及び周辺概念図(イメージ図)</p>
<p>景観重要河川</p>	
<p>多摩川</p>	<p>多摩川は、水と緑のオアシスとして市民に親しまれている河川であり、「多摩川水系河川整備計画」等に基づき、河川や周辺環境が織りなす個性的な魅力づくりに配慮した整備や生態系に配慮した自然環境の保全・創出などを進め、多摩川らしい河川景観を形成する。</p>

(2) 歴史・文化的環境

市内では、府中崖線及び国分寺崖線に縄文時代の遺跡が多数確認され、武蔵府中熊野神社古墳、高倉塚、天王塚などの古墳も確認されている。また崖線上には鎌倉時代当時要塞の機能を果たしていた寺院が多く分布している。

甲州街道沿いの宿場町と背後の農村は集落地として形成され、多摩川低地部は水田中心、武蔵野台地は連続的な樹林地が残り街道後背には畑地が形成された。



出典：府中市 HP

図 2-13 市内の主な歴史的・文化的景観